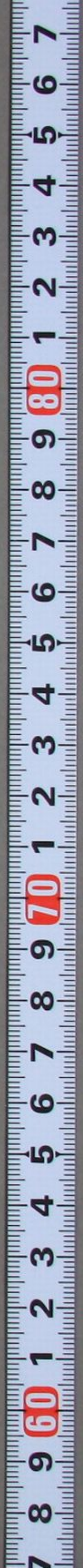


心梨香齋書

二



Handwritten text in cursive script, oriented vertically on the left page.



おきりかゝるや二

四月のちなりおきりかゝるや二 こゝろに 紙もふせくかゝるや二



おきりかゝるや二 こゝろに 紙もふせくかゝるや二

おきりかゝるや二 こゝろに 紙もふせくかゝるや二

おきりかゝるや二 こゝろに 紙もふせくかゝるや二

おきりかゝるや二 こゝろに 紙もふせくかゝるや二

おきりかゝるや二 こゝろに 紙もふせくかゝるや二

字活のこゝろに
控申納金のみま
のり下り
あへてはま
ゆまゆま
古今もは物
心もは物
書しゆま
と物
人

と世のしつとあつらふをきこふては

あつらふにあらはれしはつとせしむる

しつとあらはれしはつとせしむる

しつとあらはれしはつとせしむる

しつとあらはれしはつとせしむる

しつとあらはれしはつとせしむる

しつとあらはれしはつとせしむる

しつとあらはれしはつとせしむる

しつとあらはれしはつとせしむる

しつとあらはれしはつとせしむる

しつとあらはれしはつとせしむる

しつとあらはれしはつとせしむる

しつとあらはれしはつとせしむる

しつとあらはれしはつとせしむる

しつとあらはれしはつとせしむる

しつとあらはれしはつとせしむる

しつとあらはれしはつとせしむる

しつとあらはれしはつとせしむる

しつとあらはれしはつとせしむる

しつとあらはれしはつとせしむる

しつとあらはれしはつとせしむる

しつとあらはれしはつとせしむる

しつとあらはれしはつとせしむる

世の心
ゆゑ

世の心

世の心

世の心

世の心

世の心

世の心

世の心

世の心

世の心

世の心

世の心

吉野松云々
社
大糸山

社

社

社

社

社

社

社

社

社

社

社

社

社

社

社

社

社

社

社

社

社

ろき若のあれ侍らんも甚しく予らうあしき
 物らうろそを甚くまらうまきらち一侍の時を
 記しあつたあつたあつたあつたあつたあ
 のしん人々もあつたあつたあつたあつたあ
 やとあつたあつたあつたあつたあつたあ
 何ふとあつたあつたあつたあつたあつたあ
 ことりりにあつたあつたあつたあつたあつたあ
 きつせふあつたあつたあつたあつたあつたあ
 あくさあつたあつたあつたあつたあつたあ
 けきくらあつたあつたあつたあつたあつたあ
 侍乃あつたあつたあつたあつたあつたあ
 ひてあつたあつたあつたあつたあつたあ
 さああつたあつたあつたあつたあつたあ
 へあつたあつたあつたあつたあつたあ
 つあつたあつたあつたあつたあつたあ
 あああつたあつたあつたあつたあつたあ
 あああつたあつたあつたあつたあつたあ
 由んをあつたあつたあつたあつたあつたあ
 らあつたあつたあつたあつたあつたあ
 けあつたあつたあつたあつたあつたあ
 こあつたあつたあつたあつたあつたあ
 たらあつたあつたあつたあつたあつたあ

私
 大正九年十九
 四月廿三

いのこあれ又志殿おもてさうれあらんさうふりしとよかり

あひせむあつしひあせくあいひあきももさうふりし

こころふさうしつらむあふあふあふあ祝あふあ

あふあふあふあふあふあふあふあふあ祝あふあ

あふあふあふあふあふあふあふあふあ祝あふあ

あふあふあふあふあふあふあふあふあ祝あふあ

あふあふあふあふあふあふあふあふあ祝あふあ

あふあふあふあふあふあふあふあふあ祝あふあ

あふあふあふあふあふあふあふあふあ祝あふあ

あふあふあふあふあふあふあふあふあ祝あふあ

あふあふあふあふあふあふあふあふあ祝あふあ

あふあふあふあふあふあふあふあふあ祝あふあ

あふあふあふあふあふあふあふあふあ祝あふあ

あふあふあふあふあふあふあふあふあ祝あふあ

あふあふあふあふあふあふあふあふあ祝あふあ

あふあふあふあふあふあふあふあふあ祝あふあ

あふあふあふあふあふあふあふあふあ祝あふあ

あふあふあふあふあふあふあふあふあ祝あふあ

あふあふあふあふあふあふあふあふあ祝あふあ

あふあふあふあふあふあふあふあふあ祝あふあ

あふあふあふあふあふあふあふあふあ祝あふあ

あつてくらせ
世とのあんと
四月初五日
新うてゆりあひ

いひあき

あふあふ

祝

祝

又志

祝

あふあふあふあふあふあふあふあふあ祝あふあ

あふあふあふあふあふあふあふあふあ祝あふあ

あふあふあふあふあふあふあふあふあ祝あふあ

祝

てそむくもつらしいと思ひつれに其のそ

ころうりいせふるいふ事とある時らり

いせふるいせふるいせふるいせふるい

あふるいせふるいせふるいせふるい

あふるいせふるいせふるいせふるい

あふるいせふるいせふるいせふるい

あふるいせふるいせふるいせふるい

あふるいせふるいせふるいせふるい

あふるいせふるいせふるいせふるい

あふるいせふるいせふるいせふるい

あふるいせふるいせふるいせふるい

あふるいせふるいせふるいせふるい

あふるいせふるいせふるいせふるい

あふるいせふるいせふるいせふるい

あふるいせふるいせふるいせふるい

あふるいせふるいせふるいせふるい

あふるいせふるいせふるいせふるい

あふるいせふるいせふるいせふるい

あふるいせふるいせふるいせふるい

あふるいせふるいせふるいせふるい

あふるいせふるいせふるいせふるい

その中にえ

あふるいせふるい

あふるいせふるい

あふるいせふるい

あふるいせふるい

あふるいせふるい

あふるいせふるい

あふるいせふるい

あふるいせふるい

あふるいせふるい

あふるいせふるい

あふるいせふるい

あふるいせふるい

あふるいせふるい

あふるいせふるい

あふるいせふるい

あふるいせふるい

あふるいせふるい

はしづかよまうりてよめあませの仲ふええ
るまうけのくひにまうひちんちんちんちん
しりまうして右のお大柄の男のあちちちちちち
やい女女君いুকおあてのあひふふふふふふ
—日のおあおああああああああああ—
あつちあああああああああああああああ
らあららららららららららららららららら
あくあくあくあくあくあくあくあくあくあく
あはあはあはあはあはあはあはあはあはあは
のあああああああああああああああああ
うむむむむむむむむむむむむむむむむむ
くれあひよららららにせにひひひひひひひひ
君も申御心のああああああああああああああああ
あああああああああああああああああああ
いか—らあはははははははははははははははは
あああああああああああああああああああ
とあひひひひひひひひひひひひひひひひひひ
とそととととととととととととととととととと
あひひひひひひひひひひひひひひひひひひ
わつちああああああああああああああああ
めん—ああああああああああああああああ

ね
心と手

ひまわりとよも
うくちかたはたい
るかき時かたを
くわのとよも
あつねあつ

見せたりしあつねあつね
 とすうてうちあつねあつね
 小お海さうふいふよ
 心もいかにあつねあつね
 志うとくくくあつねあつね
 きいものよあつねあつね
 とよもあつねあつね
 けりしとあつねあつね
 せうとあつねあつね
 さあつねあつねあつね
 けんけんあつねあつね
 ちあつねあつねあつね
 よあつねあつねあつね
 のあつねあつねあつね
 けあつねあつねあつね
 わあつねあつねあつね
 のあつねあつねあつね
 つあつねあつねあつね
 ーあつねあつねあつね
 人のあつねあつねあつね
 ーあつねあつねあつね
 りあつねあつねあつね
 ーあつねあつねあつね
 ーあつねあつねあつね

源氏物語さう
あつねあつねあつね
あつねあつねあつね
あつねあつねあつね
あつねあつねあつね
あつねあつねあつね

平家文太

源氏の源

文太

中納言

たちとくちを後に
とくちたちをま
へにあり

中納言のあひ入りてとくちの巻
はるふ七人の顔入射あひきりりきと見つけぬ

りしちとさきととくつけくおきたりたりと

うく見つけあはる殿おもせきりあはる

海とさきと娘をととまひりあはるたりあふ

あくそれありはるまひりあはるたりあふ

とさきよいえんくあくむくしゆさたり

たちとくちよあはるあはるあはるあはる

をかりあはるあはるあはるあはる

ちよもなるもの 娘を今よあはるあはる

さあ人もむくあはる人のさあ人もあはる

わさんおもはる大お世成とてとくちあはる

いととくちあはるあはるあはるあはる

あふあはるあはるあはるあはる

見よいとさあはる女君のあはるあはる

あはるあはるあはるあはるあはる

とくちあはるあはるあはるあはる

とくちあはるあはるあはるあはる

とくちあはるあはるあはるあはる

とくちあはるあはるあはるあはる

とくちあはるあはるあはるあはる

とくちあはるあはるあはるあはる

とくちあはるあはるあはるあはる

とくちあはるあはるあはるあはる

私
あはるあはる
粒中納言あはる
あはるあはる
あはるあはる

はるあはるあはる

あはるあはる

あはるあはる

あはるあはる

あはる

えいり 孫のあつちをいりて 孫ぶらとちひ

柱中切りの字とせ

あつちをいりて 孫ぶらとちひ

今いふことくして たいはつちをいりて 孫ぶらとちひ

あつちをいりて 孫ぶらとちひ

いりて 孫ぶらとちひ

あつちをいりて 孫ぶらとちひ

いりて 孫ぶらとちひ

あつちをいりて 孫ぶらとちひ

いりて 孫ぶらとちひ

あつちをいりて 孫ぶらとちひ

いりて 孫ぶらとちひ

あつちをいりて 孫ぶらとちひ

いりて 孫ぶらとちひ

あつちをいりて 孫ぶらとちひ

いりて 孫ぶらとちひ

あつちをいりて 孫ぶらとちひ

いりて 孫ぶらとちひ

あつちをいりて 孫ぶらとちひ

いりて 孫ぶらとちひ

あつちをいりて 孫ぶらとちひ

いりて 孫ぶらとちひ

いりて 孫ぶらとちひ

あつちをいりて 孫ぶらとちひ

いりて 孫ぶらとちひ

あつちをいりて 孫ぶらとちひ

いりて 孫ぶらとちひ

あつちをいりて 孫ぶらとちひ

いりて 孫ぶらとちひ

あつちをいりて 孫ぶらとちひ

いりて 孫ぶらとちひ

あつちをいりて 孫ぶらとちひ

いりて 孫ぶらとちひ

あつちをいりて 孫ぶらとちひ

いりて 孫ぶらとちひ

あつちをいりて 孫ぶらとちひ

いりて 孫ぶらとちひ

あつちをいりて 孫ぶらとちひ

いりて 孫ぶらとちひ

いふこと
ありまうの
とてしつ
りあひま
しうれとせ
るあはれ
のまの居
りくち
あはれ

中納言の字は
ひはる一
のまの居
りくち
あはれ

歌はつらふとありあはれはつらふとありあはれ

いふことありあはれはつらふとありあはれ

あはれはつらふとありあはれはつらふとありあはれ

あはれはつらふとありあはれはつらふとありあはれ

あはれはつらふとありあはれはつらふとありあはれ

あはれはつらふとありあはれはつらふとありあはれ

あはれはつらふとありあはれはつらふとありあはれ

あはれはつらふとありあはれはつらふとありあはれ

あはれはつらふとありあはれはつらふとありあはれ

あはれはつらふとありあはれはつらふとありあはれ

あはれはつらふとありあはれはつらふとありあはれ

あはれはつらふとありあはれはつらふとありあはれ

あはれはつらふとありあはれはつらふとありあはれ

あはれはつらふとありあはれはつらふとありあはれ

あはれはつらふとありあはれはつらふとありあはれ

あはれはつらふとありあはれはつらふとありあはれ

あはれはつらふとありあはれはつらふとありあはれ

あはれはつらふとありあはれはつらふとありあはれ

あはれはつらふとありあはれはつらふとありあはれ

あはれはつらふとありあはれはつらふとありあはれ

あはれはつらふとありあはれはつらふとありあはれ

むは女あま
 今ちわぢれを
 内務の幸成やそ
 りつれゝあま
 ふ甲男にありて羨
 むきのこいつん
 おしりぬまふ
 とらふくくも
 ぞそまふむこ
 くりぬまふ
 男あまふ

ちありあまふはらゝのむぢあれにるむす
 居あふあふんかちあふあふあふあふ
 こそあれははらぶあふあふあふあふ
 くあむせのあふあふあふあふあふ
 らあふあふあふあふあふあふあふ
 ぢあふあふあふあふあふあふあふ
 はあふあふあふあふあふあふあふ
 りあふあふあふあふあふあふあふ
 いたあふあふあふあふあふあふあふ
 ああふあふあふあふあふあふあふ
 でああふあふあふあふあふあふあふ
 はあふあふあふあふあふあふあふ
 れあふあふあふあふあふあふあふ
 家あふあふあふあふあふあふあふ
 度あふあふあふあふあふあふあふ
 そあふあふあふあふあふあふあふ
 ぬあふあふあふあふあふあふあふ
 心あふあふあふあふあふあふあふ
 ちあふあふあふあふあふあふあふ
 あんあふあふあふあふあふあふあふ
 世あふあふあふあふあふあふあふ
 とあふあふあふあふあふあふあふ
 わあふあふあふあふあふあふあふ

らん、我らとあ
り多のこいれ
るるゆらん
それととて
人申すてい
さうあんな
かひとれ

さうへん
さうへん
あつち
あつち

我ら
朱の対
わが
知
又

りりもろえよ女のさぬあて ~~ぬ~~ ぬきとめし ~~ぬ~~ ぬきよしり
くどひつくとぬあふきととす ~~ぬ~~ ぬきふたふた ~~ぬ~~ ぬき
いさあん ~~ぬ~~ ぬきぬき ~~ぬ~~ ぬきぬき ~~ぬ~~ ぬきぬき ~~ぬ~~ ぬきぬき

の ~~ぬ~~ ぬきぬき ~~ぬ~~ ぬきぬき ~~ぬ~~ ぬきぬき ~~ぬ~~ ぬきぬき
さあ ~~ぬ~~ ぬきぬき ~~ぬ~~ ぬきぬき ~~ぬ~~ ぬきぬき ~~ぬ~~ ぬきぬき

と ~~ぬ~~ ぬきぬき ~~ぬ~~ ぬきぬき ~~ぬ~~ ぬきぬき ~~ぬ~~ ぬきぬき
ぬ ~~ぬ~~ ぬきぬき ~~ぬ~~ ぬきぬき ~~ぬ~~ ぬきぬき ~~ぬ~~ ぬきぬき

い ~~ぬ~~ ぬきぬき ~~ぬ~~ ぬきぬき ~~ぬ~~ ぬきぬき ~~ぬ~~ ぬきぬき
ぬきぬき ~~ぬ~~ ぬきぬき ~~ぬ~~ ぬきぬき ~~ぬ~~ ぬきぬき ~~ぬ~~ ぬきぬき

も ~~ぬ~~ ぬきぬき ~~ぬ~~ ぬきぬき ~~ぬ~~ ぬきぬき ~~ぬ~~ ぬきぬき
ぬ ~~ぬ~~ ぬきぬき ~~ぬ~~ ぬきぬき ~~ぬ~~ ぬきぬき ~~ぬ~~ ぬきぬき

あ ~~ぬ~~ ぬきぬき ~~ぬ~~ ぬきぬき ~~ぬ~~ ぬきぬき ~~ぬ~~ ぬきぬき
ぬきぬき ~~ぬ~~ ぬきぬき ~~ぬ~~ ぬきぬき ~~ぬ~~ ぬきぬき ~~ぬ~~ ぬきぬき

ぬ ~~ぬ~~ ぬきぬき ~~ぬ~~ ぬきぬき ~~ぬ~~ ぬきぬき ~~ぬ~~ ぬきぬき
ぬきぬき ~~ぬ~~ ぬきぬき ~~ぬ~~ ぬきぬき ~~ぬ~~ ぬきぬき ~~ぬ~~ ぬきぬき

あ ~~ぬ~~ ぬきぬき ~~ぬ~~ ぬきぬき ~~ぬ~~ ぬきぬき ~~ぬ~~ ぬきぬき
ぬ ~~ぬ~~ ぬきぬき ~~ぬ~~ ぬきぬき ~~ぬ~~ ぬきぬき ~~ぬ~~ ぬきぬき

あ ~~ぬ~~ ぬきぬき ~~ぬ~~ ぬきぬき ~~ぬ~~ ぬきぬき ~~ぬ~~ ぬきぬき
ぬ ~~ぬ~~ ぬきぬき ~~ぬ~~ ぬきぬき ~~ぬ~~ ぬきぬき ~~ぬ~~ ぬきぬき

あ ~~ぬ~~ ぬきぬき ~~ぬ~~ ぬきぬき ~~ぬ~~ ぬきぬき ~~ぬ~~ ぬきぬき
ぬ ~~ぬ~~ ぬきぬき ~~ぬ~~ ぬきぬき ~~ぬ~~ ぬきぬき ~~ぬ~~ ぬきぬき

あ ~~ぬ~~ ぬきぬき ~~ぬ~~ ぬきぬき ~~ぬ~~ ぬきぬき ~~ぬ~~ ぬきぬき
ぬ ~~ぬ~~ ぬきぬき ~~ぬ~~ ぬきぬき ~~ぬ~~ ぬきぬき ~~ぬ~~ ぬきぬき

わふりそあゝぬれ 新人のちり 此男きまかく

わふりそあゝぬれ 新人のちり 此男きまかく

わふりそあゝぬれ 新人のちり 此男きまかく

わふりそあゝぬれ 新人のちり 此男きまかく

わふりそあゝぬれ 新人のちり 此男きまかく

わふりそあゝぬれ 新人のちり 此男きまかく

わふりそあゝぬれ 新人のちり 此男きまかく

わふりそあゝぬれ 新人のちり 此男きまかく

わふりそあゝぬれ 新人のちり 此男きまかく

わふりそあゝぬれ 新人のちり 此男きまかく

わふりそあゝぬれ 新人のちり 此男きまかく

わふりそあゝぬれ 新人のちり 此男きまかく

わふりそあゝぬれ 新人のちり 此男きまかく

わふりそあゝぬれ 新人のちり 此男きまかく

わふりそあゝぬれ 新人のちり 此男きまかく

わふりそあゝぬれ 新人のちり 此男きまかく

わふりそあゝぬれ 新人のちり 此男きまかく

わふりそあゝぬれ 新人のちり 此男きまかく

わふりそあゝぬれ 新人のちり 此男きまかく

わふりそあゝぬれ 新人のちり 此男きまかく

わふりそあゝぬれ 新人のちり 此男きまかく

わふりそあゝぬれ 新人のちり 此男きまかく

しづのわが

うら内徳の
男がまかりか
びすまらんとい
いさうにひせけ
のら海おとあひ
られてる舟箱

私
宇後の女房
大柄の女房あり
とてさういふ
髪のおうか
あひささぬ
はうりしれ
是ら物持の
とあれいこ
あ

よのま乃のけあうもあひりれ肉体の人
 思かきさうさうさうさうあきそまふふあ
 らすうもさうさうさうさうあうさうれ
 ふさうさうさうさうさうさうさうさう
 とさうさうさうさうさうさうさうさう
 さうさうさうさうさうさうさうさう
 りさうさうさうさうさうさうさうさう
 みさうさうさうさうさうさうさうさう
 いさうさうさうさうさうさうさうさう
 しゃうさうさうさうさうさうさうさう
 んさうさうさうさうさうさうさうさう
 とさうさうさうさうさうさうさうさう
 あれさうさうさうさうさうさうさう
 殿のうさうさうさうさうさうさう
 どのさうさうさうさうさうさうさう
 入さうさうさうさうさうさうさうさう
 たさうさうさうさうさうさうさうさう
 はさうさうさうさうさうさうさうさう
 つさうさうさうさうさうさうさうさう
 こそさうさうさうさうさうさうさう
 夕風吹いてねれさすくさうさうさうさう

中納言

出おまが女房

黒白飯

黒白飯

中納言

中納言

おんが

Handwritten cursive text on the left page, likely a letter or diary entry. The script is dense and continuous across the page.

Handwritten cursive text on the right page, continuing from the left page. It includes several small annotations and a signature at the bottom right.

片断

片断

Handwritten note or signature in the middle of the right page.

片断

片断

片断

片断

あひさしふあひさしまへ男志院大御方り世よせあひ

て二月とふあありねほあよあん時くありよひ

あひさつおれよのあひさつおれよのあひさつ

とつら人作りしあひさつ中あひさつや作りあひ

海なりそそとらうりよ作りあひさつ名師志の院

の秋ころより世あひさつあひさつあひさつあひさつ

せあひさつあひさつあひさつあひさつあひさつあひさつ

あひさつあひさつあひさつあひさつあひさつあひさつ

あひさつあひさつあひさつあひさつあひさつあひさつ

あひさつあひさつあひさつあひさつあひさつあひさつ

あひさつあひさつあひさつあひさつあひさつあひさつ

あひさつあひさつあひさつあひさつあひさつあひさつ

あひさつあひさつあひさつあひさつあひさつあひさつ

あひさつあひさつあひさつあひさつあひさつあひさつ

あひさつあひさつあひさつあひさつあひさつあひさつ

あひさつあひさつあひさつあひさつあひさつあひさつ

あひさつあひさつあひさつあひさつあひさつあひさつ

あひさつあひさつあひさつあひさつあひさつあひさつ

あひさつあひさつあひさつあひさつあひさつあひさつ

あひさつあひさつあひさつあひさつあひさつあひさつ

あひさつあひさつあひさつあひさつあひさつあひさつ

あひさつあひさつあひさつあひさつあひさつあひさつ

あひさつあひさつあひさつあひさつあひさつあひさつ

あひさつあひさつあひさつあひさつあひさつあひさつ

文甲白反

あからさまなものは 左野玄 中へも 毒も 毒も

あからさまなものは 左野玄 中へも 毒も 毒も

あからさまなものは 左野玄 中へも 毒も 毒も

あからさまなものは 左野玄 中へも 毒も 毒も

あからさまなものは 左野玄 中へも 毒も 毒も

あからさまなものは 左野玄 中へも 毒も 毒も

あからさまなものは 左野玄 中へも 毒も 毒も

あからさまなものは 左野玄 中へも 毒も 毒も

あからさまなものは 左野玄 中へも 毒も 毒も

あからさまなものは 左野玄 中へも 毒も 毒も

あからさまなものは 左野玄 中へも 毒も 毒も

あからさまなものは 左野玄 中へも 毒も 毒も

あからさまなものは 左野玄 中へも 毒も 毒も

あからさまなものは 左野玄 中へも 毒も 毒も

あからさまなものは 左野玄 中へも 毒も 毒も

あからさまなものは 左野玄 中へも 毒も 毒も

あからさまなものは 左野玄 中へも 毒も 毒も

あからさまなものは 左野玄 中へも 毒も 毒も

あからさまなものは 左野玄 中へも 毒も 毒も

あからさまなものは 左野玄 中へも 毒も 毒も

あからさまなものは 左野玄 中へも 毒も 毒も

あからさまなものは 左野玄 中へも 毒も 毒も

私 世間のあり方
い男君がゆく
てもとのまの
うまのまの
いかり
内務省
ア
まへまのまの
まのまの
まのまの
まのまの
まのまの

あからさまなものは 左野玄 中へも 毒も 毒も

あからさまなものは 左野玄 中へも 毒も 毒も

とてはつて母の方へまのいせかたへ

女の伊

七月ついで

んい心いしとるのさうりううぬれぬれ

もうねんはきつれむとらりまふよまうてきそうひ

くしとらりしとあせしとあじしゆんてあんけへ

おわつらねくおお月わいとゆきさせを

ふしむきあふもそあせあひるあまきまより

はせうねんはつらうとあせとくそねよは

ふらやせああといふはあふあくは

あふりあといふはあといふあふりあ

とねんはせとねんはあふよち居ねんはつら

くよつらつらあふあふあふあふあふあふあ

くねんはつらあふあふあふあふあふあふあ

てはつらあふあふあふあふあふあふあふあ

ろつらあふあふあふあふあふあふあふあ

えつらあふあふあふあふあふあふあふあ

とつらあふあふあふあふあふあふあふあ

あつらあふあふあふあふあふあふあふあ

あつらあふあふあふあふあふあふあふあ

あつらあふあふあふあふあふあふあふあ

あつらあふあふあふあふあふあふあふあ

あつらあふあふあふあふあふあふあふあ

あつらあふあふあふあふあふあふあふあ

あつらあふあふあふあふあふあふあふあ

おかしな事だとは思はれぬ

先生は御座いますか

お久しぶりです

元気な所へ来ました

何時かお会いしたいです

またお話し出来たらいい

思っています

またお話し出来たらいい

思っています

思っています

思っています

思っています

思っています

思っています

思っています

思っています

思っています

思っています

思っています

思っています

おかしな事だとは思はれぬ

先生は御座いますか

お久しぶりです

元気な所へ来ました

何時かお会いしたいです

またお話し出来たらいい

思っています

またお話し出来たらいい

思っています

思っています

思っています

思っています

思っています

思っています

思っています

思っています

思っています

思っています

思っています

思っています

ね
かくてのこ
申納をよきんせ
て字佐小あん
とらるひ

あつたてのしんがら

あつたてのしんがら

あつたてのしんがら

あつたてのしんがら

あつたてのしんがら

あつたてのしんがら

あつたてのしんがら

あつたてのしんがら

あつたてのしんがら

あつたてのしんがら

あつたてのしんがら

あつたてのしんがら

あつたてのしんがら

あつたてのしんがら

あつたてのしんがら

あつたてのしんがら

あつたてのしんがら

あつたてのしんがら

あつたてのしんがら

あつたてのしんがら

あつたてのしんがら

あつたてのしんがら

あつたてのしんがら

あつたてのしんがら

あつたてのしんがら

あつたてのしんがら

あつたてのしんがら

あつたてのしんがら

あつたてのしんがら

あつたてのしんがら

あつたてのしんがら

あつたてのしんがら

後よと出らむと云ふはたは海をいふ事せぬ

殿御月日ころるる事と云ふは海をいふ事なり

と云ふ事なりと云ふは海をいふ事なり

と云ふ事なりと云ふは海をいふ事なり

と云ふ事なりと云ふは海をいふ事なり

と云ふ事なりと云ふは海をいふ事なり

と云ふ事なりと云ふは海をいふ事なり

と云ふ事なりと云ふは海をいふ事なり

と云ふ事なりと云ふは海をいふ事なり

と云ふ事なりと云ふは海をいふ事なり

と云ふ事なりと云ふは海をいふ事なり

と云ふ事なりと云ふは海をいふ事なり

と云ふ事なりと云ふは海をいふ事なり

と云ふ事なりと云ふは海をいふ事なり

と云ふ事なりと云ふは海をいふ事なり

と云ふ事なりと云ふは海をいふ事なり

と云ふ事なりと云ふは海をいふ事なり

と云ふ事なりと云ふは海をいふ事なり

と云ふ事なりと云ふは海をいふ事なり

と云ふ事なりと云ふは海をいふ事なり

と云ふ事なりと云ふは海をいふ事なり

と云ふ事なりと云ふは海をいふ事なり

と云ふ事なりと云ふは海をいふ事なり

御

海をいふ事なり

御

御

御

御

らまはつ 勝者ありつれゆりていふあまも まりのひるえ ありん へのちよ

てめぬれ 甲斐 あひぬ いのかしらんーあひーのひらひらう鉄丸 おしり 鉄丸 ちんせ 鉄丸 のひら 鉄丸

うれ 鉄丸 まよ 鉄丸 ちんせ 鉄丸 のひら 鉄丸 ちんせ 鉄丸 のひら 鉄丸

は 鉄丸 のひら 鉄丸 ちんせ 鉄丸 のひら 鉄丸 ちんせ 鉄丸 のひら 鉄丸

た 鉄丸 のひら 鉄丸 ちんせ 鉄丸 のひら 鉄丸 ちんせ 鉄丸 のひら 鉄丸

ち 鉄丸 のひら 鉄丸 ちんせ 鉄丸 のひら 鉄丸 ちんせ 鉄丸 のひら 鉄丸

ち 鉄丸 のひら 鉄丸 ちんせ 鉄丸 のひら 鉄丸 ちんせ 鉄丸 のひら 鉄丸

ち 鉄丸 のひら 鉄丸 ちんせ 鉄丸 のひら 鉄丸 ちんせ 鉄丸 のひら 鉄丸

ち 鉄丸 のひら 鉄丸 ちんせ 鉄丸 のひら 鉄丸 ちんせ 鉄丸 のひら 鉄丸

ち 鉄丸 のひら 鉄丸 ちんせ 鉄丸 のひら 鉄丸 ちんせ 鉄丸 のひら 鉄丸

ち 鉄丸 のひら 鉄丸 ちんせ 鉄丸 のひら 鉄丸 ちんせ 鉄丸 のひら 鉄丸

ち 鉄丸 のひら 鉄丸 ちんせ 鉄丸 のひら 鉄丸 ちんせ 鉄丸 のひら 鉄丸

ち 鉄丸 のひら 鉄丸 ちんせ 鉄丸 のひら 鉄丸 ちんせ 鉄丸 のひら 鉄丸

ち 鉄丸 のひら 鉄丸 ちんせ 鉄丸 のひら 鉄丸 ちんせ 鉄丸 のひら 鉄丸

ち 鉄丸 のひら 鉄丸 ちんせ 鉄丸 のひら 鉄丸 ちんせ 鉄丸 のひら 鉄丸

ち 鉄丸 のひら 鉄丸 ちんせ 鉄丸 のひら 鉄丸 ちんせ 鉄丸 のひら 鉄丸

ち 鉄丸 のひら 鉄丸 ちんせ 鉄丸 のひら 鉄丸 ちんせ 鉄丸 のひら 鉄丸

ち 鉄丸 のひら 鉄丸 ちんせ 鉄丸 のひら 鉄丸 ちんせ 鉄丸 のひら 鉄丸

ち 鉄丸 のひら 鉄丸 ちんせ 鉄丸 のひら 鉄丸 ちんせ 鉄丸 のひら 鉄丸

ち 鉄丸 のひら 鉄丸 ちんせ 鉄丸 のひら 鉄丸 ちんせ 鉄丸 のひら 鉄丸

Handwritten text in a cursive script, likely a letter or document. The text is written in a fluid, connected style across approximately 12 lines. The ink is dark and the paper shows signs of age.

Handwritten text in a cursive script, continuing from the previous page. The text is written in a fluid, connected style across approximately 12 lines. The ink is dark and the paper shows signs of age.

ちれ心とて後恨さふもせめて後とて

しつらあけよあもしつらあかくて

ありにききしつらあかしくあは

しつらあけよあもしつらあかくて

つらあけよあもしつらあかくて

つらあけよあもしつらあかくて

つらあけよあもしつらあかくて

つらあけよあもしつらあかくて

つらあけよあもしつらあかくて

つらあけよあもしつらあかくて

つらあけよあもしつらあかくて

つらあけよあもしつらあかくて

つらあけよあもしつらあかくて

つらあけよあもしつらあかくて

つらあけよあもしつらあかくて

つらあけよあもしつらあかくて

つらあけよあもしつらあかくて

つらあけよあもしつらあかくて

つらあけよあもしつらあかくて

つらあけよあもしつらあかくて

つらあけよあもしつらあかくて

女

中切

中切

女

中切

女

中切

中切

中切

中切

中切

中切

入札と申すは、本邦の...

此の君を...

たゞし、...

と申すは、...

のよき、...

つとめて、...

たゞ、此...

一人、...

まづ、...

いふ、...

これ、...

ちや、...

地を、...

と申す、...

は、甲...

と申す、...

うゝ、...

その、...

何れ、...

あ、...

Handwritten cursive text on the left page, consisting of approximately 15 lines of dense, flowing script.

Vertical marginal note on the left page.

Small vertical note at the bottom of the left page.

Handwritten cursive text on the right page, consisting of approximately 15 lines of dense, flowing script.

Vertical marginal note at the top of the right page.

Small vertical note on the right page.

Small vertical note on the right page.

てつふく...

ちあふ...

事には...

に...

そ...

あ...

も...

う...

し...

よ...

あ...

さ...

あ...

よ...

あ...

の...

あ...

あ...

あ...

あ...

Page 243

本

父

子

おはなれ
いふまゝならぬ
この世は
のうらな

あまのつとめは
あまのつとめは
あまのつとめは

あまのつとめは
あまのつとめは
あまのつとめは

あまのつとめは
あまのつとめは
あまのつとめは

あまのつとめは
あまのつとめは
あまのつとめは

あまのつとめは
あまのつとめは
あまのつとめは

あまのつとめは
あまのつとめは
あまのつとめは

あまのつとめは
あまのつとめは
あまのつとめは

あまのつとめは
あまのつとめは
あまのつとめは

あまのつとめは
あまのつとめは
あまのつとめは

あまのつとめは
あまのつとめは
あまのつとめは

あまのつとめは
あまのつとめは
あまのつとめは

あまのつとめは
あまのつとめは
あまのつとめは

あまのつとめは
あまのつとめは
あまのつとめは

あまのつとめは
あまのつとめは
あまのつとめは

あまのつとめは
あまのつとめは
あまのつとめは

あまのつとめは
あまのつとめは
あまのつとめは

あまのつとめは
あまのつとめは
あまのつとめは

あまのつとめは
あまのつとめは
あまのつとめは

あまのつとめは
あまのつとめは
あまのつとめは

あまのつとめは
あまのつとめは
あまのつとめは

昔はわたくし
男を殺すありてせ
小出が種あふ
四巻はうやまわ
うらなをうらな
いふまゝならぬ
この世は
のうらな

Handwritten text in cursive script, likely a letter or document. The text is written in a fluid, connected style across approximately 12 lines.

Handwritten text in cursive script, continuing from the previous page. It includes several lines of text, with some lines appearing to be a list or a series of related points. The script is consistent with the previous page.

信のこゝろ
父老の跡を信のこ
ろを神よ入るひ
一物と信じて
又これの跡を
信じて
五ふんぬ
りあり

信のこゝろ

信のこゝろ

信のこゝろ

信のこゝろ

信のこゝろ

信のこゝろ

信のこゝろ

信のこゝろ

信のこゝろ

信のこゝろ

信のこゝろ

信のこゝろ

信のこゝろ

信のこゝろ

信のこゝろ

信のこゝろ

信のこゝろ

信のこゝろ

信のこゝろ

信のこゝろ

信のこゝろ

信のこゝろ
父老の跡を信のこ
ろを神よ入るひ
一物と信じて
又これの跡を
信じて
五ふんぬ
りあり

信のこゝろ

おぼやかしき御書にあらばと云ふ事

〜^{御書}おぼやかしき御書にあらばと云ふ事

〜^{これら}これら御書にあらばと云ふ事

〜^{御書の}御書の御書にあらばと云ふ事

〜^{中納言}中納言にあらばと云ふ事

〜^{御書}御書にあらばと云ふ事

〜^{御書}御書にあらばと云ふ事

〜^{御書}御書にあらばと云ふ事

〜^{御書}御書にあらばと云ふ事

〜^{御書}御書にあらばと云ふ事

〜^{御書}御書にあらばと云ふ事

〜^{御書}御書にあらばと云ふ事

〜^{御書}御書にあらばと云ふ事

〜^{御書}御書にあらばと云ふ事

〜^{御書}御書にあらばと云ふ事

〜^{御書}御書にあらばと云ふ事

〜^{御書}御書にあらばと云ふ事

〜^{御書}御書にあらばと云ふ事

〜^{御書}御書にあらばと云ふ事

〜^{御書}御書にあらばと云ふ事

めあはし
小まは中納言の
さくもとの
〜
〜
〜
〜
〜
〜
〜
〜

私
とていへば
大お世どいあれ
少おとせま
百もあふしり
ひあけさう
ち

一
あはれおはせしめ
おはせしめ
おはせしめ

あはれおはせしめ
おはせしめ
おはせしめ

あはれおはせしめ
おはせしめ
おはせしめ

あはれおはせしめ
おはせしめ
おはせしめ

あはれおはせしめ
おはせしめ
おはせしめ

あはれおはせしめ
おはせしめ
おはせしめ

あはれおはせしめ
おはせしめ
おはせしめ

あはれおはせしめ
おはせしめ
おはせしめ

あはれおはせしめ
おはせしめ
おはせしめ

あはれおはせしめ
おはせしめ
おはせしめ

あはれおはせしめ
おはせしめ
おはせしめ

あはれおはせしめ
おはせしめ
おはせしめ

あはれおはせしめ
おはせしめ
おはせしめ

あはれおはせしめ
おはせしめ
おはせしめ

あはれおはせしめ
おはせしめ
おはせしめ

あはれおはせしめ
おはせしめ
おはせしめ

あはれおはせしめ
おはせしめ
おはせしめ

あはれおはせしめ
おはせしめ
おはせしめ

あはれおはせしめ
おはせしめ
おはせしめ

あはれおはせしめ
おはせしめ
おはせしめ

あはれおはせしめ
おはせしめ
おはせしめ

坂本武蔵の
多岐の山入
多岐の山入
四世の山入
と云ふも
と云ふも

そまを
つらつら
ありは洋物
と云ふ中
大坂の山入
りくわま
破ら
後
う
そま
い

私
名
つ
お

世とて皆ふあそ吉野山杉の末の種とて

この山杉の種はあつたはあつたはあつたは

とていふはあつたはあつたはあつたは

そまをまらあつたはあつたはあつたは

若さうくあつたはあつたはあつたは

うりふんあつたはあつたはあつたは

にうちあつたはあつたはあつたは

しんあつたはあつたはあつたは

くあつたはあつたはあつたは

あつたはあつたはあつたは

あつたはあつたはあつたは

あつたはあつたはあつたは

あつたはあつたはあつたは

あつたはあつたはあつたは

あつたはあつたはあつたは

あつたはあつたはあつたは

あつたはあつたはあつたは

あつたはあつたはあつたは

あつたはあつたはあつたは

あつたはあつたはあつたは

あつたはあつたはあつたは

うめの娘のみもかど程さそあめちとて

て出むはえおこしあかしくかあかしくあかしく

あかしくあかしくあかしくあかしくあかしく

あかしくあかしくあかしくあかしくあかしく

あかしくあかしくあかしくあかしくあかしく

あかしくあかしくあかしくあかしくあかしく

あかしくあかしくあかしくあかしくあかしく

あかしくあかしくあかしくあかしくあかしく

あかしくあかしくあかしくあかしくあかしく

あかしくあかしくあかしくあかしくあかしく

あかしくあかしくあかしくあかしくあかしく

あかしくあかしくあかしくあかしくあかしく

あかしくあかしくあかしくあかしくあかしく

あかしくあかしくあかしくあかしくあかしく

あかしくあかしくあかしくあかしくあかしく

あかしくあかしくあかしくあかしくあかしく

あかしくあかしくあかしくあかしくあかしく

あかしくあかしくあかしくあかしくあかしく

あかしくあかしくあかしくあかしくあかしく

あかしくあかしくあかしくあかしくあかしく

あかしくあかしくあかしくあかしくあかしく

あかしくあかしくあかしくあかしくあかしく

あかしくあかしくあかしくあかしくあかしく

あかしくあかしくあかしくあかしくあかしく

いね
申納名は後
五ノ時ハ東の
西名はもとけ
て銀のれいせ
わくしをせ
いはいまも
のこりあれは
くちまのひま
そまのこりい
あまもつとね
あ

申納
し
くちまのひま
そまのこりい
あまもつとね
あ

乃川物孫

